

起因物（小）別コードno.714 異常環境等労働災害発生状況

業種別異常環境等労働災害発生状況（1999-2021年）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

器用部 品製造 業																							
011409 その他 の電気 機械器 具製造 業																							
0114 電気機 械器具 製造業				2			1	1	1			1								2		8	
011501 造船業							1		1	1		1		1	2			1	1		3		12
011502 自動 車・同 付属品 製造業								1		1								1	2				5
011503 鉄道車 両・同 部分品 製造業																							
011509 その他 の輸送 用機械 等製造 業											1							1					2
0115 輸送用 機械等 製造業							1	1	1	2	1	1		1	2			3	3		3		19
011601 電気業																					1		1
011602 ガス業															1								1

[illegible]

[illegible]

[illegible]

岸工事業			2		2			3	3	1		3	1	2		2	1		1		1	1	2	25
030199 その他の土木工事業			2				3	1	1	4	1		3	1	3				1				1	21
0301 土木工事業			10		4		5	4	5	9	2	5	5	5	5	3	2	6	4		3	1	4	82
030201 鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業																								
					5		1	1		1		2	3	4			2		1	1	1			22
030202 木造家屋建築工事業					1							1	4				4		1			1		12
030203 建築設備工事業					1		1		1				1					3						7
030209 その他の建築工事業										2		3	2	1	1				1					10
0302 建築工事業					7		2	1	1	3		6	10	5	1		6	3	3	1	1	1		51
030301 電気通信工事業									1						1		1	1	1	1				6
030302 機械器					2		5													1	1			9

[illegible]

[illegible]

陸上貨物取扱業			1					1			1	1	2					1				7	
0501 陸上貨物取扱業			1					1			1	1	2					1				7	
050201 一般港湾運送業										1												1	
050202 港湾荷役業							1	1								1						3	
050209 その他の港湾運送業																	1					1	
0502 港湾運送業							1	1			1					1	1					5	
05 貨物取扱業			1				1	1	1		1	1	1	2			1	1		1		12	
060101 農業			1						2	1	1		1					1			1	5	13
0601 農業			1						2	1	1		1					1			1	5	13
060201 木材伐出業					1																		1
060209 その他の林業									1				1									1	3
0602 林業					1				1				1									1	4
06 農林業			1		1				3	1	1		2					1			1	6	17
070101										2	1			1			3	2	1	1			11

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

140302 公園・ 遊園地									2				1					3		1	1		8		
140309 その他 の接客 娯楽業 ーその他							2		1	1	1	1			1		2	1					10		
1403 その他 の接客 娯楽業							2		1	5	1	2	1	2		1		2	4		1	1	23		
14 接客 娯楽業			1		3		3	3	2	7	1	4	2	2		1	2	3	5	1	2	2	1	45	
150101 ビルメ ンテナ ンス業										1		1	1	4	3	2	1			4	1		1	19	
150102 産業廃 棄物処 理業												1		2				2	1	1		2		9	
150103 その他 の廃棄 物処理 業			2						1												2	2		7	
150104 火葬業																									
150105 と畜業																									
150109 その他 の清 掃・と 畜業			1							1		1		2	1						1	1		8	
1501 清掃・			3						1		2		3	1	8	4	2	1	2	1	5	4	5	1	43

と畜業																								
15 清掃・と畜業			3				1		2		3	1	8	4	2	1	2	1	5	4	5	1	43	
160101 官公署						1							1									2		
1601 官公署						1							1									2		
16 官公署						1							1									2		
170101 派遣業																								
1701 派遣業																								
170201 警備業						2					1	1	2					1	2	1	3	13		
170202 情報処理サービス業												1										1		
170209 その他			2		2	2	6	1	1		2	2	7	5	1		1	1	2	1		1	37	
1702 その他の事業			2		2	4	6	1	1		3	4	9	5	1		1	1	3	3	1	4	51	
17 その他の事業			2		2	4	6	1	1		3	4	9	5	1		1	1	3	3	1	4	51	
0 全産業			46		40	41	41	44	45	27	44	59	83	65	26	35	51	55	65	31	32	28	858	

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建設工 事業																							
030104 鉄道軌 道建設 工事業																							
030105 橋梁建 設工事 業																							
030106 道路建 設工事 業					1	1																2	
030107 河川土 木工事 業																							
030108 砂防工 事業																							
030109 土地整 理土木 工事業																							
030110 上下水 道工事 業									2		1			1								4	
030111 港湾海 岸工事 業	1	2	1			1			1		1				1						1	9	
030199 その他 の土木 工事業		1	1				2		1												1	6	
0301 土木工	1	3	2		1	2		2		4		2			1		1					2	21

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

1601 官公署																								
16 官公署																								
170101 派遣業							1										1					2		
1701 派遣業							1										1					2		
170201 警備業																								
170202 情報処 理サー ビス業																								
170209 その他				3																		3		
1702 その他の 事業				3																		3		
17 其 他の事 業				3			1										1					5		
0 全産 業	2	9	8	7	5	3	5	8	2	9	4	5	4	7	5	1	5	4	4	7	5	9	7	125

出典：<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00.htm> (MHLW, Japan)

異常環境等を起因物（小）とする死亡災害事例（2012-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 （小） コード	事故 の型 コード	労働 者規 模
2012	10	14 ～ 15	被災者を含め複数で刈り取った飼料用デントコーンの山にビニールシートをかぶせる作業中、デントコーン上に掛けられたビニールシートの下に入り込んだ際、ビニールシート下の酸素が低濃度である空気を吸ったことにより体調に異常をきたし、自身の嘔吐物により窒息した。なお、デントコーンはコの字形をした盛土内に、山積み	70101	12	10～ 29

			にされていた。			
2012	3	14 ～ 15	下水管の止水栓を開けるためにマンホールの蓋を開けて中に入ったところ、実際は止水栓は開いていたものの汚水が詰まって流れてこなかったため棒で突いた。その後、汚水が流れ出た際、マンホール内に居た1名が意識不明となり救急車で搬送された。	150109	12	10～ 29
2012	12	19 ～ 20	第3製鋼工場の転炉に副原料を投入するための中継ホッパーのダンパーが動作不良を起こしたため点検したところ、ダンパーが取り付けられているフィーダーとよばれる部分の内張が捲れてダンパーに接触していた。被災者は単独で捲れた内張を点検口からグラインダーで切断することとし、常時ホッパーに供給されている窒素を止めるためバルブを閉めた後、点検口に上半身を入れた状態で意識を失い倒れた。	11001	12	300 ～
2012	8	17 ～ 18	室内の定期清掃業務において、被災者は男性トイレの床のワックスがけ前の準備作業として、トイレの床を業務用掃除機で除塵作業を行っていた際、当該トイレ内で倒れているところを同僚に発見され、救急搬送先の病院で死亡した。	150101	11	300 ～
2012	8	12 ～ 13	鉄筋コンクリート造家屋建築工事現場で、地下ピットに溜まった水を排水ポンプで抜く作業を行っていた被災者は、ピット内に入り、酸素欠乏症により死亡した。また、死亡した被災者を救出するため、ピット内に入った現場代理人も意識を失ってピット内で倒れたが、救急隊によって救出され、搬送先の病院で治療を受けた。災害が発生したピットに隣接するピットの酸素濃度を測定したところ、酸素濃度は0.2%であった。	30209	12	10～ 29
2012	7	21 ～ 22	路上に停車中の冷蔵冷凍車の荷台内で、被災者が倒れているところを発見され、搬送先の病院で死亡が確認された。なお、荷台の扉は完全には閉まっておらず、積み荷は、アイスクリーム約500箱と冷凍の魚で、アイスクリームの箱の中には、個々にドライアイスが入っていた。	40301	12	30～ 49
2012	8	15 ～ 16	円筒形の調味液タンク（直径約180cm×深さ約180cm）を清掃する作業中、内部に入った労働者から連絡がないため同僚が確認したところ、タンク内部で倒れている被災者を見つけた。また、助けに入った同僚も同じく被災した。	10103	12	30～ 49
2012	6	17 ～ 18	自社駐車場内において、大型バキューム車のタンク上部マンホールから高圧水ホースで散水しながら、内部の堆積汚泥等の洗浄を実施した後、内部に入って洗浄を続けようとした被災者が内部に入ってしゃがんだところ、突然倒れた。	150102	12	1～9
2013	5	0 ～ 1	既設水路と下水本管を接続するための直径800mmの鋼管の中で、鋼管推進作業中に遭遇した地中障害物の探針を行っていたところ、意識を失い、その後救出され搬送されたが死亡した。尚、司法解剖の結果、死因は急性硫化水素中毒であることが判明した。	30110	12	30～ 49
2013	3	12 ～ 13	木工機械から集塵装置に繋がるダクト内で木屑が燃えたため、集塵装置まで火が移っていないことを確かめるためダクト内を伝って集塵装置に向かった被災者2名は、集塵装置とダクトの接続部で倒れた。被災者らの異常な声を聞き、様子を見に向かった3名のうち1名も集塵装置の内部で倒れ、他の2名は息苦しさを感しながらも引き返して助かった。倒れた3名を消防が救出し、病院に搬送したが3名とも死亡した。	10402	12	30～ 49
2013	3	12 ～ 13	木工機械から集塵装置に繋がるダクト内で木屑が燃えたため、集塵装置まで火が移っていないことを確かめるためダクト内を伝って集塵装置に向かった被災者2名は、集塵装置とダクトの接続部で倒れた。被災者らの異常な声を聞き、様子を見に向かった3名のうち1名も集塵装置の内部で倒れ、他の2名は息苦しさを感しながらも引き返して助かった。倒れた3名を消防が救出し、病院に搬送したが3名とも死亡した。	10402	12	30～ 49
2013	3	12 ～ 13	木工機械から集塵装置に繋がるダクト内で木屑が燃えたため、集塵装置まで火が移っていないことを確かめるためダクト内を伝って集塵装置に向かった被災者2名は、集塵装置とダクトの接続部で倒れた。被災者らの異常な声を聞き、様子を見に向かった3名のうち1名も集塵装置の内部で倒れ、他の2名は息苦しさを感しながらも引	10402	12	30～ 49

			き返して助かった。倒れた3名を消防が救出し、病院に搬送したが3名とも死亡した。			
2013	7	14 ～ 15	L N G 船の配管の冷却試験中、1号タンク上部で監視業務に従事していた被災者の携帯電話に、同僚から「紛失した工具を探してほしい。」旨の連絡があった。被災者は付近を探していた。被災者と連絡が取れないので同僚が不審に思い1号タンクに向かったところ、1号タンク上部に仮設されたドームハウスの中でぐったりしている被災者を発見した。	11501	12	1000 ～ 9999
2014	11	14 ～ 15	有機溶剤を使用して行う化学物質を洗浄する作業中、被災者が遠心分離器内部に頭部を入れ、意識を失っているところを発見された。尚、化学物質が酸化しないように遠心分離機内に窒素ガスを注入していた。	10801	12	50～ 99
2015	10	14 ～ 15	開放検査が終わったタンク（内容量500kL）にヘキシルグリコール（安衛法非該当）を入れる作業中、同製品の品質を保つため窒素を注入し、酸素濃度を0.5%以下としていた。被災者は、12時30分ころ、タンク上部において一人で酸素濃度測定作業を行っていた。その後、被災者は、14時ころ、下部のマンホールを開け、内部でうつ伏せで意識不明で発見され、そのまま死亡が確認された。この作業は予定されていなかった。	50202	12	10～ 29
2015	8	14 ～ 15	被災者は、木造家屋の解体工事現場において、敷地内に埋設された供給用のガス（プロパン）管の閉止作業のため、ガス管を露出させるために掘削した深さ1m程の穴の中に入り、ガス管を切断して閉止作業を行っていたが、穴の中で意識を失った状態で倒れていたところを発見された。その後、病院に搬送されたが、約1時間後に低酸素血症により死亡した。	11602	12	300 ～ 499
2015	9	15 ～ 16	平成27年9月1日未明に降った大雨により定置網が破損したため、定置網を補修する必要が生じ、被災者は潜水業務を行った。最大水深は約30m。潜水業務が終了した後、漁船により移動している途中に被災者が体調不良を訴えたため、救急車により病院に搬送されたが、約9時間後に死亡したものである。	70201	12	10～ 29
2015	2	13 ～ 14	湾口防波堤建設現場において、クラブ船を使用して海中に捨石を投入し、水深約18mの箇所において、人力で捨石を均す作業中、潜水してから約10分後に異常を訴えたため、被災者はさがり綱を使用し、自力で水面に緊急浮上してきた。その後、船上で心肺停止となった。	30111	12	1～9
2015	3	17 ～ 18	被災者は、高炉の燃料となる微粉末の石炭と窒素を封入していたジェットパック車（貨物自動車の後部に円筒形のタンクを搭載している）をペレット製造設備のサイロに運搬後、次の運搬をするためにジェットパック車のタンク上部のハッチを開け作業を行っていたところ、安全帯に吊られハッチ内部に上半身を入れた状態で同僚に発見された。発見時にタンク内の底部にはハッチに取り付けるパッキンと玉掛け用補助手工具が落ちていた。	40301	12	50～ 99
2016	7	10 ～ 11	事業場所有の台船が浸水したため、同社所属の労働者は、埠頭に台船に係留し、マンホール内部に立ち入り浸水箇所の特定を行おうとしたところ、台船内部が酸素濃度14%となっており、酸欠により心肺停止の状態で救急搬送、搬送先の病院で死亡が確認された。	50209	12	10～ 29
2016	7	13 ～ 14	80立米の窒素ガスタンク（タンク内は網目状のフロアデッキが4つもうけられている）内において、タンクの傷及び厚さの検査のために2人の作業員がタンク内に入り、作業準備のため下層部から最上層へ向かい荷物を運搬していたところ、1人作業員が3段目フロアデッキに着いて間もなく倒れた。倒れた作業員は救出後、死亡を確認。	150102	12	50～ 99
2016	5	11 ～ 12	自社工場において、焼酎廃液の入った貯蔵タンク（直径約2.2m、高さ約2.5m）からポンプを介して小分け用のタンク（約1m四方の立方体）に移し替える作業を行っていた作業員が、貯蔵タンク上部のマンホール（直径77cm）から、タンク内に入ったところ倒れた。救出のために、同タンク内に入った作業員も倒れた。	70101	12	1～9
2016	2	18 ～	工場の外壁に沿って設置された鉄骨製のベランダの下で、液体窒素の入ったボンベの減圧作業に従事していた被災者が当該ボンベの前で倒れているところを発見され、病院に緊急搬送されたが、6時間後に死亡が確認され	11204	12	30～ 49

		19	た。			
2017	11	8 ～ 9	被災者は、コーヒーのドリップパック製造ラインのサークルフィーダ（コーヒー粉を回転羽根で攪拌する装置）内の清掃をするため、開口部から上半身を入れたところ、酸欠状態になり倒れているところを発見された。当該サークルフィーダ内はコーヒーの品質保持のため酸素濃度が0.1%以内になるよう窒素が充填されていた。	10109	12	100 ～ 299
2017	10	14 ～ 15	化学工場の定期修理工事において、窒素ガスを充てんしたタワー塔を換気する準備を行うためマンホールを開放する作業を行っていたところ、意識を失っているところを発見された。	30309	12	10～ 29
2017	8	12 ～ 13	産業廃棄物最終処分場で、埋立地の浸透水をためる原水槽の水量調査を労働者2名で行っていたところ、1名が意識を失い原水槽に転落。もう1名も一度意識を失ったものの、その後、意識を取り戻し自力で脱出した。	170101	12	100 ～ 299
2017	4	10 ～ 11	下請業者の外国人造船就労者が、台船（長さ4.5m、幅1.5m、高さ2.5m）の点検整備作業において、船内の浸水、浸水状況を確認するため、マンホールから船内に入ったところ倒れ、救助に入った別の下請業者の技能実習生も倒れた。外国人造船就労者は翌日に亡くなった。消防到着時（午前10時40分頃）に測定した船内の酸素濃度は、6%であった。	11501	12	1～9
2018	11	4 ～ 5	プラント2階にあるジクロロメタンが入った缶に、粉体ポンプを使用して活性炭を仕込む作業中、缶のマンホールに上半身が入って意識不明の状態が発見され、病院にて治療を受けていたが、後日低酸素脳症により死亡したものの。	10801	12	30～ 49
2018	10	14 ～ 15	洗浄槽内に洗浄した部品が落ちていないか確認に行った被災者が戻ってこないため、同僚が探したところ洗浄槽内で倒れている被災者を見つけた。被災者は心肺停止状態で救急搬送され、搬送先の病院で蘇生したものの低酸素脳症と診断を受け、入院加療していたが後日死亡したものの。被災者発見時、洗浄槽底部は洗浄液であるジクロロメタンの残液で濡れている状態で、再現による酸素濃度測定では約13%であった。	11209	12	100 ～ 299
2018	10	14 ～ 15	解体を行う鉄製の台船において、同船の甲板の下槽内の排水を行うための準備作業を行っていたところ、蓋の開いた当該槽内に立ち入って倒れたもの。	11209	12	1～9
2018	10	14 ～ 15	解体を行う鉄製の台船において、同船の甲板の下槽内の排水を行うための準備作業を行っていたところ、蓋の開いた当該槽内に立ち入って倒れたもの。	11209	12	1～9
2018	4	2 ～ 3	コークス乾式消火設備（CDQ）の送風ファンのバランス調整作業をほぼ終え、片付け作業の段階で、被災者は、送風ファンのダクト内壁の修繕も行おうと、ダクト側面のマンホールより送風ファンダクト内に一人で立ち入ったものと推測される。作業用の仕切板が外されており、ダクト内に消火用の窒素ガスが充填し酸素欠乏状態となったもの。被災者は約20分後に発見されたが、既に心肺停止状態となっていた。	11001	12	1000 ～ 9999
2018	3	10 ～ 11	被災者は、ドラム破砕機より異音が生じたのでドラム破砕機の破砕刃に干渉していた金属塊を取り除くため、上部からドラム破砕機のホッパー内に立ち入り、約3メートル下にある破砕刃まで降り立った直後に意識を失い倒れたもの。ドラム破砕機のホッパー内は破砕時の薬液への引火防止のため、窒素ガスが注入され酸素欠乏状態となっていた。被災者は、低酸素脳症を発症し、病院で治療を受けていたが、後日死亡した。	150102	12	30～ 49
2018	2	18 ～ 19	隣接する寺で飼われている猫が、湯殿館内に展示している遺構（昔の風呂の跡）の底部（床から1.8メートル下）で倒れているのを寺の住人が発見したため、住人が当館を管理している事業場に連絡したところ、連絡を受けた被災者が猫を救出するため遺構の内部に入り、猫を抱き上げた拍子に、その場で倒れた。被災者は意識が戻	130301	12	10～ 29

			らないまま死亡した。なお、当該遺構の底部の酸素濃度は、通常より低い数値であった。			
2019	9	14 ～ 16	駐車場棟の地下ピット内にある型枠の解体作業において、次のピット内の型枠解体作業に取り掛かる前に被災者の姿が見当たらないため現場内を探していたところ、当日作業予定のないマンホールの蓋が開いていたため、同僚がピット内を確認したところ、仰向けの状態で倒れている被災者を発見、搬送先の病院で死亡したものである。（ピットの深さ：約1810mm、奥行：約7500mm、幅：約2200mm）	30201	12	10～ 29
2019	9	10 ～ 12	残飯を原材料としたリサイクル飼料の製造工程において、被災者が飼料製造機の投入ホッパーの開口部付近で残飯投入装置のアタッチメントを交換していたところ、同ホッパー内に工具を落としたため、同ホッパー内に立ち入ったところ、同所には残飯が堆積し酸素が欠乏していたため、死亡した。	150103	12	10～ 29
2019	9	10 ～ 12	残飯を原材料としたリサイクル飼料の製造工程において、同僚が飼料製造機の投入ホッパーの開口部付近で残飯投入装置のアタッチメントを交換していたところ、同ホッパー内に工具を落としたため、同ホッパー内に立ち入ったところ、同所には残飯が堆積し酸素が欠乏していたため、死亡した。また、意識を失った同僚を救助しようとして同所に立入った被災者も意識を失い、病院搬送後に死亡した。	150103	12	10～ 29
2019	8	18 ～ 20	業務を終え、トラックをコインパーキングに駐車し、冷凍庫内にドライアイスが残っている状態で当該トラックから離れた。その後、被災者が当該トラックに戻り、当該トラックのエンジンを始動し、当該トラックの荷台冷凍庫に入った。その後、倒れている被災者が発見されたが、窒息による死亡が確認されたもの。	80409	12	30～ 49
2019	2	8 ～ 10	タンクに入っている腐敗したラテックスをタンクローリーに抜き取り作業を行っていたところ、上部で作業していた代表者がいなかったため、下で作業していた被災者がタンク上部を確認したところ、タンク内に落下している代表者を発見しタンクローリー運転手に助けを求めた。タンクローリー運転手がタンク上部に上った際に、代表者と被災者がタンク内で浮いているのを発見し救急要請。約4時間後に救出されたが死亡確認された。	150109	12	1～9
2020	10	18 ～ 20	下水道管の閉塞が発生したため、汚泥を取り除く緊急清掃作業を実施していた労働者が作業を終えてマンホール内から地上に出ようとしたところ、マンホールの底（深さ約7m）に転落し、救助に向かった被災者も転落した。（2名死亡）なお、消防において現場を測定したところ、硫化水素が測定器の検出上限30ppmを振り切って検出されていた。また、一酸化炭素濃度が最大で84ppmであった。	150103	12	30～ 49
2020	10	16 ～ 18	産業廃棄物から生じた液体を貯留するタンク（ガラス繊維強化プラスチック製、全高1.4メートル、直径1.5メートル、容量1.5立方メートル）の内部を清掃する作業において、内部に立ち入った作業者が突然意識を失ったもの。	150102	12	10～ 29
2020	7	8 ～ 10	マグネットを製造するための焼結炉に、断熱材を留めていたピンを回収するため立ち入った労働者1名が酸欠状態になり倒れ、当該労働者を助けるために同僚労働者1名が焼結炉に入ったところ、同様に酸欠状態となり被災、両名とも死亡したもの。	11403	12	100 ～ 299
2020	7	8 ～ 10	マグネットを製造するための焼結炉に、断熱材を留めていたピンを回収するため立ち入った労働者1名が酸欠状態になり倒れ、当該労働者を助けるために同僚労働者1名が焼結炉に入ったところ、同様に酸欠状態となり被災、両名とも死亡したもの。	11403	12	100 ～ 299
2020	7	8 ～ 10	箱型土運船のホールド部の亀裂の修理するため、ボイド部に溜まった水を抜く作業を2人で行った。船上のマンホールからポンプのホースを入れていたところ、ボイド内部にホースが引っ掛かったため、作業員Aはホースの位置を変えるためマンホールから入ったが落下した。作業員Bは事業主とともに、作業員Aを助けるためマンホールから内部に入ったが同様に落下した。病院に搬送されたが、酸素欠乏症により2名と事業主が死亡した。	11501	12	1～9
2020	7	8 ～	箱型土運船のホールド部の亀裂の修理するため、ボイド部に溜まった水を抜く作業を2人で行った。船上のマンホールからポンプのホースを入れていたところ、ボイド内部にホースが引っ掛かったため、作業員Aはホースの	11501	12	1～9

		10	位置を変えるためマンホールから入ったが落下した。作業員Bは事業主とともに、作業員Aを助けるためマンホールから内部に入ったが同様に落下した。病院に搬送されたが、酸素欠乏症により2名と事業主が死亡した。			
2020	5	14 ～ 16	窒素パージされていたタンクの上部のマンホールを開放し、縄梯子を使用して、タンク内に入槽した後、仰向けで倒れた状態で発見された。	30309	12	100 ～ 299
2020	4	16 ～ 18	残さい等の産業廃棄物を粉砕する機械の清掃作業に伴い、粉砕中に機械から発生する流出物から固形物を濾しとるためにダクト（断面積1m×1m、深さ4m）の底に設置されているストレーナーを回収するためにテルハでつり上げようとしたところ、テルハのフックから外れてしまっていたことから、取り付けるためにテルハのフック及びスリングにしがみつきながらダクト内部に降り、取り付け直後に痙攣し意識を失ったもの。	11709	12	50～ 99
2020	4	8 ～ 10	屋外に設置されている原材料の発酵用タンクの上において、発酵状況を確認するためのマンホールが全開の状態で、当該マンホールに被さっていた被災者を同僚が発見したもの。医療機関に救急搬送され入院加療中であったが死亡したもの。	10801	12	10～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_02.html